

環境改善調査研究の事後評価結果

実施課題： 大気環境の改善に向けた施策に関する調査研究
～諸外国の光化学オキシダント対策に関するレビュー～

実施機関： 一般社団法人環境情報科学センター

1. 評価点

(採点基準)5:大変優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣っている 1:劣っている

評価項目	評価点
(1)大気環境改善対策の推進への貢献度	4.00
(2)研究成果目標の達成度	4.00
(3)研究計画の妥当性	3.50
(4)研究内容の独自性	3.25
(5)社会・経済または学術に対する貢献度	4.00
(6)総合評価	3.75
全体評価点	3.75

2. 記述評価(委員コメント)

<全般的な評価>

・コロナ禍の最中ではあったが、情報収集の方法が的確で、ヒヤリングも適正であった。また、調査報告の編集(図表、文面、説明ぶり)も適切に行われている。
・調査内容に関しては、概ね最新の情報が収集されている。また、諸外国やWHOにおける環境基準設定の考え方や、環境基準の見直しの体制に関する情報は、国や地方自治体での今後の取組を検討するに当たって参考になる。このため、本報告書が今後多方面に周知され活用されることを期待する。
・本研究の目的のうち諸外国の対策の実態を明らかにすることについては、諸外国におけるオゾン濃度とその対策の実態について網羅的に調査され、それらの相違点も含めて要領よく整理されていると評価できる。

<改善・補足を要望したい事項>

・わが国では科学的知見に基づき定期的な環境基準の見直しが必要とされていることに鑑み、今回の調査研究結果を学術論文に取り纏めて公表することを期待する。
・諸外国の対策についてわが国への適用可能性を検討するに当たっては、国における直近の状況について環境省や中央環境審議会の関係者から情報収集を行うことが必要である。
・わが国における生物起源のVOCがオゾン生成に及ぼす影響について、諸外国の例を踏まえてどのように取り扱い、どのような対策を講じればよいか考察が必要である。
・越境汚染問題について、これまでにわが国と中国や韓国との間で国や地方自治体レベルで情報交換されてきた経緯を調べた上で、そこで共通に認識された課題を明らかにし、今後の対策に向けた連携のあり方について検討が必要である。
・地方自治体におけるオゾン濃度低減のために、地域特性に応じた対策の整理が必要である。また、地方自治体が大気シミュレーションモデルを利用する際の有用性と、利用に当たっての課題及び解決方策についても整理が必要である。